

情報共有

3枚 (非管理メモ)

東京電力株式会社

9/29 15:40 広報班

NISA対応 プレス対応チーム

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

取扱注意 公開不可

日時：平成 23 年 9 月 29 日 (木) 11:00~11:25

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 20 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力立地・本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ
- ・ 滞留水処理分析結果シート

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 2 号機圧力容器下部の温度が上下しているということだが、原因をどのように考えているか。

A. 2 号機圧力容器下部の温度は 1、2℃の上下を繰り返しつつ、全体としては低下傾向を示してしている。現在は、炉心スプレイ系から注水により比較的順調に低下していると思うが、損傷燃料の崩れ方により炉注水のかかり方が異なるため、温度に多少の上下があるのかと思う。はっきりした原因は分かっていない。

Q. 100℃以下という数字について、冷温停止の定義を満たしていると思うが、東電としてどのように受け止めているか。また、数字の信頼性についてはどのように考えているか。

A. 圧力容器下部の温度が概ね 100℃以下になっているというのが冷温停止の条件の 1 つであり、数字としては達成している。ただし、この状況が将来にわたって確実に実現できるかどうかが大変であり、今後とも注水システムの安定的な供給やメンテナンスなども含めて検討する必要がある。また、近日中に原子力安全・保安院が安全確保の考え方が示されるということなので、その指針に従って、設備をどう運用、維持するかを計画し、実行する。

Q. 冷温停止の判断は早いということか。

A. その通り。2 号機の圧力容器下部温度は現在 99℃程度であり、もう少し余裕のある値が必要と考えている。現在、1・3 号機は 70℃台であるので、2 号機もその程度まで低下させる必要があるかと考えている。

Q. 1 号機の格納容器スプレイ系の水素と窒素の置換について、本日の作業を取りやめ、方法を再検討するということだが、どの点に不安を感じているのか。

A. 昨日お示しした窒素パージの手順にて実施することで、配管内の水素濃度を十分に

低減でき、切断作業を安全上問題なく実施できると判断し、作業準備を進めていたが、今回の作業に万全を期すため、本日の作業を一旦立ち止め、実施手順を再検討することとした。また、火力発電所では可燃性ガスについての知識も豊富であるため、広く意見を聞いた上で実行する予定。

Q. 11月の電気料金について、他電力は値下げするにも関わらず、東京電力は値上げをするのはなぜか。

A. 燃料費調整制度という、石油やLNG等の燃料調達費を直ちに電気料金に反映させる制度を運用しているため、電気料金を値上げすることとなる。この制度により、電気料金を値下げする月もある。

Q. 東京電力は9ヶ月連続で値上げしているようだが、それでも値上げするのか。

A. 低価格での電気を供給したいと思っているが、燃料の価格次第なので結果的に値上げさせていただく。

Q. 政府の調査委員会で、過去10年間、東京電力は電気代を取りすぎていたのではないかという報道があるが、それでも値上げするのか。

A. そのような報道があることは承知しているが、調査委員会からの報告書が提出されていないため、コメントは差し控えさせていただく。ただし、今回の値上げは燃料費調整制度に基づくものなので、変更する予定は無い。

Q. 値上げについては、消費者は理解していると思うか。

A. 消費者の方々には、その都度真摯に対応させていただいている。

Q. 格納容器スプレイ系配管内の窒素パージについて、現在検討している手順以外に選択肢はあるのか。

A. 現時点で窒素パージや安全確保対策に欠陥があるわけではなく、一旦作業を立ち止まり、作業手順に抜けがないかについて再確認することとしたもの。結果的には現在考えている作業手順と変わらない可能性もあるが、その場合でも今後の作業に自信を持って取り組めると考えている。

Q. 安全面で懸念される点は何か。

A. 46A弁では、63%という高濃度の水素が検出されていることから、何かの拍子で着火や爆発が発生するリスクを払拭すべく対策を検討していく。

Q. 着火源に関しての対策を検討するということか。

A. 着火源の他にも酸素が混入しないようにするために、現在の手順で問題がないかを再確認している。

Q. 46A弁で酸素濃度を測定しているが、今後酸素濃度を再度測定する予定はあるのか。

A. 窒素パージ実施後、水素と酸素の濃度を計測する予定。

Q. 酸素濃度は46A弁でしか測定していないが、84A弁は測定するのか。

A. 84A弁はファンネルの間に配管が挿入されており、物理的に酸素濃度計を設置することが困難であることから46A弁での測定を考えている。

Q. ファンネル部分に酸素濃度計を挿入して濃度を計測することはできないのか。

A. 現時点でその予定はない。最終的には水素ガス濃度が1%未満になっていることを確認したいと考えている。

Q. 今回1号機の格納容器スプレイ系配管で高濃度の水素が検出されたことに伴い、2、3号機の格納容器ガス管理システムの工事状況への影響はあるのか。

A. 2、3号機についても、工事を予定している配管に水素が溜まっている可能性があることから、配管を接続する際には水素ガスの濃度測定を実施したいと考えている。ただし配管接続作業と平行して装置の製造・据え付けが出来る事から、格納容器ガス管理システムの設置工事および運転開始時期への影響はないと考えている。

Q. 今日明日中には、2、3号機についても工事に着手できるのか。

A. 確認する。

Q. 1号機で窒素パージの手順について再検討するとのことだが、2、3号機については作業手順についての再検討を実施しないのか。

A. 現時点では水素ガスの濃度を計測できていないことから、格納容器スプレイ系の取り出し配管部で水素ガスの濃度分析をし、高濃度の水素が検出された場合には、必要に応じ窒素パージを実施することになる。

Q. 格納容器ガス管理システム設置工事において、2、3号機の工事内容は1号機と比べ何が違うのか。

A. 2、3号機は、配管取り出し口のキャップを開け仮設ホースをつなぎ込むことから配管を切断する作業がなく、切断の際に火花が出るというリスクはない。ただしキャップを開放した際に水素ガスが大気中に放出され可燃限界を超える可能性があることからしっかり対応していく。

以 上